



モザンビークにおける
炭鉱及び鉄道・港湾インフラ事業への出資参画

2016年9月30日
三井物産株式会社

案件主要点

1. 案件概要
2. 世界有数の競争力ある炭鉱への参画
3. 安定的収益が見込める鉄道・港湾インフラ事業
4. 事業価値最大化に向けての三井物産の貢献
5. 戦略的パートナーであるVale社との重層的な取組み



1. 案件概要

- モザンビークにおける石炭資源開発と鉄道・港湾インフラ整備の一体開発モデルの推進
- 当社の出資参画は、2017年3月期中を予定

	当社出資比率	初期投融資額	その他	備考
モアティーズ炭鉱	約15%	255百万米ドル	-	価格調整条項あり*1
ナカラ回廊インフラ	約35%	348百万米ドル	165百万米ドル (新規融資額)	プロジェクトファイナンス 組成予定*2

(*1)最大195百万米ドルの追加支払調整条項（今後の操業実績を含む諸条件充足状況により調整される）

(*2)プロジェクトファイナンス（最大27億米ドル）による資金調達を予定

モアティーズ炭鉱



ナカラ鉄道・港湾インフラ



2. 世界有数の競争力ある炭鉱への参画

<モアティーズ炭鉱の優位性・参画意義>

● 生産状況／建設・操業状況（ブラウンフィールド案件）

- 2011年より生産開始、2015年の生産量は5.0百万トン
- 拡張工事の進捗率は6月末時点で約99%

● 大規模な埋蔵量

- 原料炭・一般炭合計で5億トン超、鉱命は30年超（埋蔵量のアップサイド有り）

● 高い競争力

- 炭層が地表近くに位置し、露天掘りによる大量生産が可能（コスト競争力）
- 原料炭は良質なコークスの原料となる希少性の高い強粘結炭、一般炭も高熱量の高品位炭（価格競争力）

● 供給ソースの多角化

- 豪州を原産とする強粘結炭の寡占化が進む市場において、新たな供給ソースを保有することで安定供給の確保に貢献



3. 安定的収益が見込める鉄道・港湾インフラ事業

<ナカラ鉄道・港湾事業の優位性・参画意義>

● 建設・操業状況

- 2016年6月末時点で工事進捗率は約99%、2015年12月に出荷を開始
現在はフル操業に向けてランプアップ中

● 安定的な収益貢献

- 長期契約に基づき、モアティーズ炭の輸送・積出を担うため、安定的収益が見込める
- 鉄道事業は石炭輸送に加え、一般貨物及び旅客も輸送し、港湾事業は一般貨物ターミナルの整備・運営にも関与
- ナカラ鉄道の支線は穀倉地帯、ザンビアまで延びており、農産物や木材、肥料、燃料輸送等の輸送需要あり、2030年には沿線の物流量は現在の10倍以上になる見込み

● 鉄道輸送及び港湾積出能力の更なる拡張の可能性

- 将来の地域経済成長に合わせ、鉄道輸送・港湾取扱能力を柔軟に拡張可能
- サブサハラ地域の鉄道/港湾におけるボトルネック解消を通じた「輸送力創出・強化」により、高成長が期待されるナカラ回廊地域の経済発展に寄与



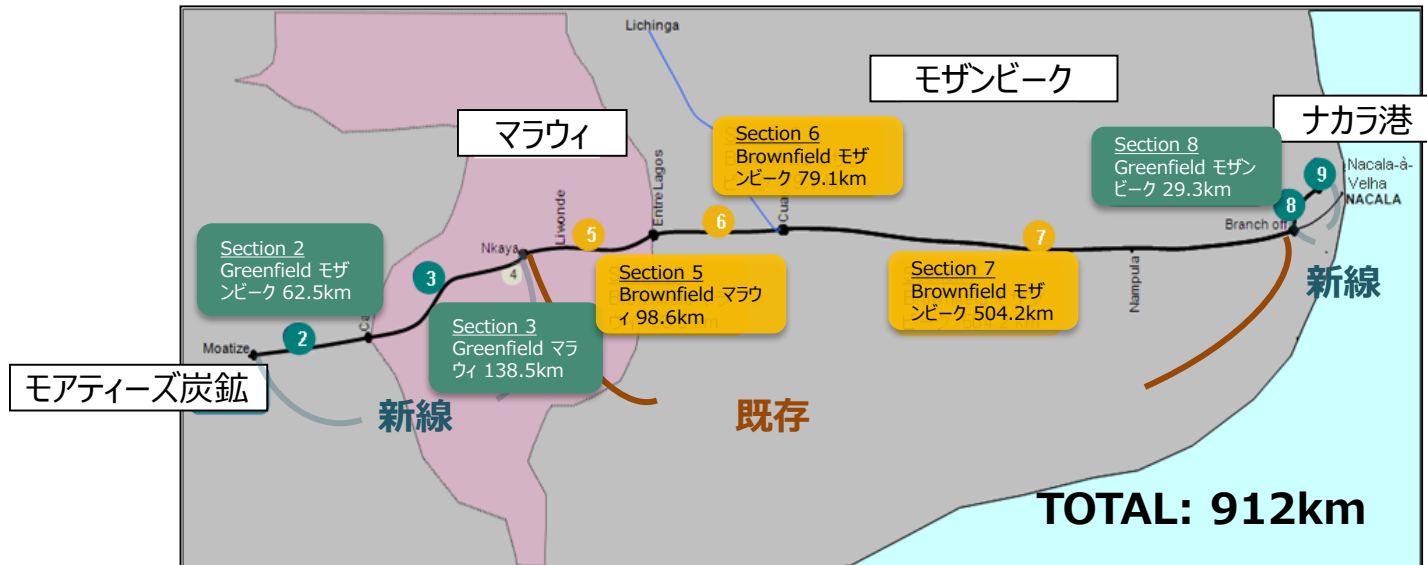
(補足説明) -インフラ関連写真及び地図-



【ナカラ鉄道】



【ナカラ港】



【ナカラ回廊】



4. 事業価値最大化に向けての三井物産の貢献

<当社総合力の発揮と周辺事業への展開>

● 炭鉱操業への貢献・モアティーズ炭の販売活動

- 50年以上に亘る石炭事業への取り組みを通じて培った操業知見の活用
- 各国製鉄会社から高い評価を受ける原料炭、高熱量が特徴の一般炭の全世界販売に協力。当社はVale販売部隊と協業（参画後は、当社からの駐在員を差し入れ予定）

● Vale/当社の協業によるプロジェクトファイナンスの組成

- モザンビーク・マラウイ初のプロジェクトファイナンス組成によりアフリカでの大規模事業を実現
- 国際機関・制度金融・市中銀行等の支援を受けた官民一体型の案件組成に貢献

● 鉄道・港湾事業への当社知見の提供と周辺事業開発

- 当社が培ってきた鉄道・港湾事業の知見、ノウハウを提供（参画後は、当社からの駐在員を差し入れ予定）
- 農産物・鉱物資源等の荷主開拓、発電・水インフラ開発、リース事業等



5. 戦略的パートナーであるVale社との重層的な取組み

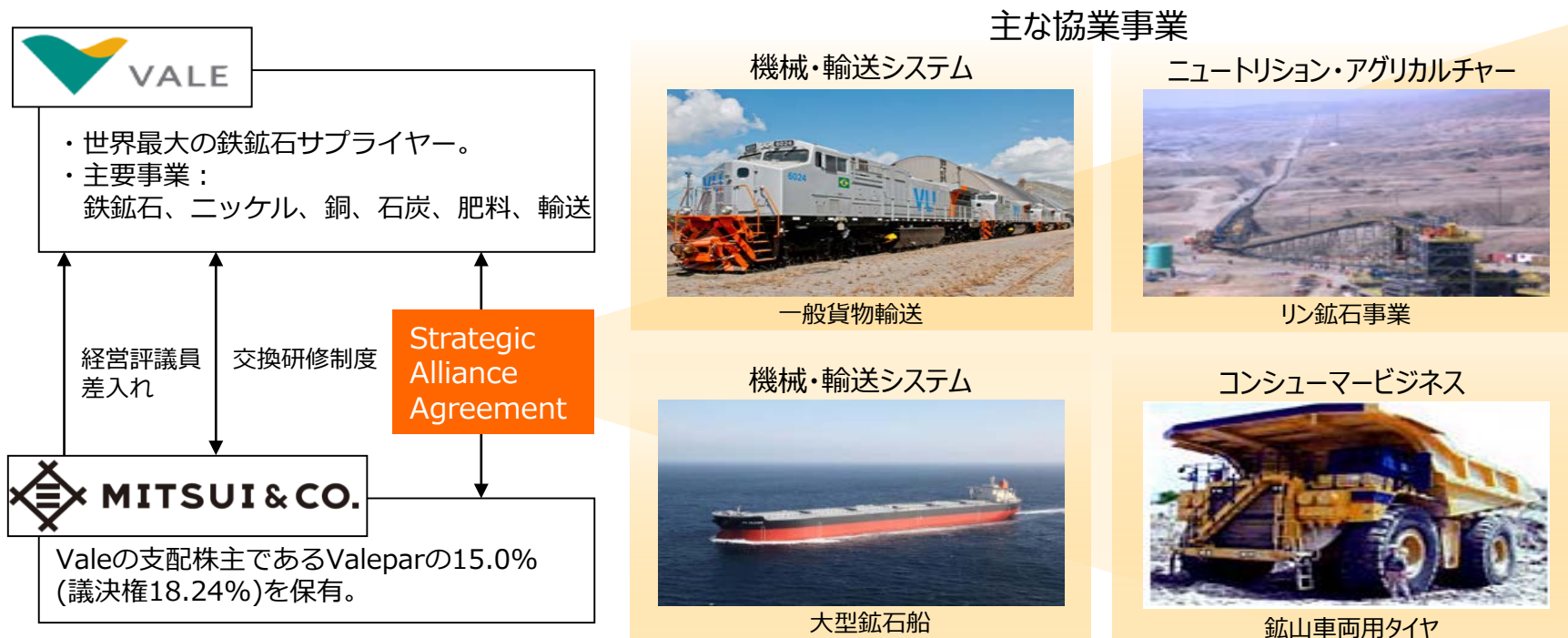
<Vale社との取組み>

● Vale社は豊富な操業実績を有する優良パートナー

- Vale社は、世界最大の鉄鉱石サプライヤー且つ世界有数の鉄道オペレーター

● Vale/当社の戦略提携契約

- 鉄鉱石を始め、リン鉱石、一般貨物事業など幅広く協業中
- 全15営業本部中、11本部がVale社とビジネス上の接点有り（2016年9月時点）



360° business innovation.



MITSUI & CO.